

阿波踊りの企業連に見る多層的関係を構築・強化する機能

—担い手としての企業の可能性—

中村 まい

本研究の目的は、民俗芸能である阿波踊りに参画する企業連を媒介として構築・強化される諸関係に着目することで、現代都市部で果たし得る民俗芸能の社会的機能を明らかにすることである。ここで言う諸関係とは、踊り集団に属することで生じる企業と参加者の関係、踊り集団の参加者間で構築される関係、企業と地域社会や一般大衆との信頼関係、踊り集団間での協力関係などを指す。

現代の民俗芸能を取り巻く背景として、近年、保存から他分野との連携を想定した活用へと重点が移行してきており、経済的価値への偏重や過度な商業利用などが危惧される。営利組織であり、一見すると経済的価値との親和性が高いと考えられる企業の踊りへの参与によって得られる社会的効果に着目することで、地域経済振興や観光資源化という経済的観点からの活用の中にも、民俗芸能の社会的価値を見いだすことができると考えられる。また、担い手としての企業の可能性を示すことで、現代の民俗芸能が抱える担い手不足や資金調達難に対して解決の糸口を示すことにもつながるだろう。そこで本研究では、担い手集団としての企業連の活動実態に着目して、そこにどのような関係構築・強化の可能性が見出せるかについて検討した。

第1章では、阿波踊りの芸態や担い手が有してきた特徴のうち、現代の企業連に引き継がれる性質を検討するため、特に芸態の変容と企業の関わりに着目して阿波踊りの歴史を概観した。最盛期の江戸期には多様な芸態が確認された阿波踊りは、大正期以降、踊りに集約され、集団の統一性を強化する方向へと向かった。それに連動するかのようになり、集団の表象としての企業や商品を用いる踊り集団が散見され、大正期が企業連誕生期と考えられる。度重なる観光資源化の結果、阿波踊りは様式化・画一化・技巧化された芸態へと変容していき、有名連や一般連が披露する技巧的な「見せる」踊りの需要が高まることで、連に所属しない、地域住民の踊る場がなくなっていったと言う課題も指摘されている。

第2章では、現在の民俗芸能としての阿波踊りの舞踊特性やその阿波踊りを観光資源として活用している祭りである阿波おどりの運営、参加する担い手の状況について概観した。阿波踊りは基本の振りが2拍動作と短い民俗芸能でありながら、踊りの種類や複数の隊形を組み合わせることによって群舞の応用的な展開である演舞構成が可能になっている。企業連は、通年で活動していると思われる一般連や学生連より、観客の多い有料演舞場での出演が多いことが明らかになった。

第3章では、阿波踊りの企業連の活動実態を明らかにするため、三原やっさ踊りとよさこい鳴子踊りに参加する企業チームとの比較を行った。企業連/チームの運営に関する質問調査の結果、どの踊りに参加する企業連/チームも、自社従業員のみならず、企業内外の多様な人員で構成されているが、阿波踊りの企業連の特徴として、地域外・企業外の参加者を含める企業が多い傾向が挙げられた。有名連・一般連との連単位の協力関係も阿波踊りの企業連に特有のものであった。練習への関わり方を比較すると、三原やっさ踊りでは相対的に練習量が少なく、参加者の練習参加に対する姿勢は寛容であった。よさこい鳴子踊りでは練習量が多く、参加者に練習参加をより求める傾向も見られた。阿波踊りでは、練習量にばらつきが見られ、練習参加を求める姿勢と練習量や演舞構成の実施には強い関わりがない可能性も示され、この点が阿波踊りの独自性と考えられた。

第4章では、多様な参加者を包含しながら、演舞の質を保つ、阿波踊りの企業連の運営の工夫を考察するために、聞き取り調査で得た情報から具体的な参与事例を確認した。5つの活動類型の事例から、企

業連は練習量を増やして自ら演舞構成を実施したり、有名連や一般連などの習熟した踊りに頼ったりすることで有料演舞場での「見せ物」としての質を担保していることが示唆された。この背景には、連内の役割分担を可能にし、習熟度の異なる他連との合同出演を可能にしている隊列という阿波踊り特有の舞踊特性があるからだと考えられる。

阿波踊りの企業連は従業員の福利厚生、社内の従業員同士の連携強化、社員教育、企業 PR、顧客の接待、関連企業・取引先企業との関係強化の機会として活用されていることが確認された。企業連の活動を介して構築・強化される関係は、個人レベル、組織レベル、社会レベルという3つの異なる次元に影響を及ぼしており、企業連は企業内外の多様な人々を内包することによって、多層的な関係の構築・強化が可能になっていると考えられる。企業連は「広義の社縁」を契機として結成されており、祭りという境界状況におけるコミュニティの力により広義の社縁が強化され、ひいては企業連における多層的な関係を強化することにつながっていると考えられる。

3つの踊りの企業連/チームの活動実態の比較から、参加者の範囲は、舞踊特性や祭りの規模によって異なり、審査や「見られる」場の形成などが芸能の担い手の活動実態に影響を与えてきた可能性が示された。本研究の結果、民俗芸能の社会的機能のうち、多層的な関係構築・強化の機能が阿波踊りの企業連に見られることが明らかになった。他の担い手との有機的な関係性や芸能への関与により、企業連は現代の阿波踊りを支えつつ、現代的な課題を解決する糸口の一つとして提示できる。